

—Journal of Design and Manufacturesを事例にして—

○鈴木 暁子 伊藤 紀之 研谷 悦子

<目的> 1851年のロンドン万国博覧会の時期を含む1849年から1852年に英国で出版された雑誌「Journal of Design and Manufactures」の編集者ヘンリー・コールは、当時ロンドンや地方都市に設立されていたスクール・オブ・デザインの重要な後援者であり、また当時のデザインの改革を推進した人物として、デザイン史上重要な人物とされている。しかしこの雑誌は、19世紀の英国のデザインを考える上では、注目すべきものであるにもかかわらず、あまり知られていない。そこで、この雑誌が当時のデザインというものにおいてどのような位置にあるのかを考察することを目的とした。

<方法> 雑誌「Journal of Design and Manufactures」vol.1-6, London, Chapman & Hall, 1849-1852は、1巻につき6ヵ月分の雑誌が綴じ込まれている。これらに、ほぼ毎号載せられていた、記事Review of Patterns等を主な研究資料とした。

<結果> この雑誌には、当時生産されていた生活用品の挿し絵や、壁紙、織物、洋服地の実物サンプル等が含まれており、同時にそれらに対する評価が記述されている。ヘンリー・コールや、彼の周辺の人物たちが、当時のデザインに対してどのような考えを持っていたのかを知る上で、重要な手掛かりとなる貴重な資料であることが分かった。